

#### C-4 中断移転者の財産証人

はなから仰々しいタイトルで恐縮です。少し前のことですがこんな事があった。

建物中断移転で長い間仮住いされている権利者の、跡取り息子の婚約話ですからそれは目出たい話なのですが、発端は権利者からの「事業者の方から、キチンと説明して貰えまいか!!」の一言である。

聴けば、彼と中部の地方都市に住む彼女は大学時代に接近し、それぞれが就職してからも交際を続けていたとのこと。機も熟してきたようで、急遽、彼女の両親が“婚約を前に、一度彼の自宅を訪ねたい。”という運びになったようだ。

勿論、双方の親とか兄弟の顔合わせもあろうが、何と言っても『ニュータウンで結構な財産持ちの家柄』という概念は、娘を通して親たちの認識するところになっていたであろう事は、想像に難くない。

現状では地区の周辺区域に集合されたプレハブの仮設住宅での住いである。加えて、自慢の田畑は造成工事に供されており、耕地としての面影はない。とても、財産とか住宅等の身上・身持ちの話が出来そうもない、という訳である。そこで、彼の父親からの依頼なのである。

開発と造成の現場は、そこそこの事情を察して貰うのに時間は掛らないであろうが、仮住いの現状については厄介かもしれない。仮だからとは言え実際問題として狭い仮設に親子がひしめいている感じだし、折角の田畑も売るもしないと土地があっても豪邸の新築ができないのでは、と思われる節もあるだろう。

人様の財産と生活スタイルに踏み込むような部外者による説明は、いくら事業者側だからといって好ましくないと思いつつも、土地原簿・登記簿謄本・建物調査表・契約書、それとお人柄まで加筆した資料を準備し、地下鉄駅に近くなる点も一緒に話そう…。等と意気込んだものです。

結局は、参考となる分の資料類を権利者の方に渡すだけで、彼女の御両親に直接お会いして説明するには及ばなかったのですが、却って胸を撫で下ろしたものである。

後日、それとなく理解の程と首尾の顛末を聞いてみたら、スケールの大きなニュータウンとそこで生活をはじめ新所帯へのエールがひとときわ座を賑わし、大好評であったそうです。

以 上